



SDMニュース

SDM NEWS



福澤研究センター都倉武之専任講師による福沢学の講義

5

2011年 月号

行事予定

2011年6月2日(木)13:00 ~ 17:40

SDM研究所主催
慶應義塾大学グローバルCOEプログラム
「環境共生・安全システムデザインの先導
拠点」、測位衛星技術株式会社共催
「高精度測位技術研究セミナー
～最新のGNSS技術とその応用例～」
@日吉キャンパス協生館 3階C3S02教室
[http://www.sdm.keio.ac.jp/news/
2011/05/11-135941.html](http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2011/05/11-135941.html)

要事前登録 無料(先着100名)

2011年6月3日(金)19:00 ~ 20:30

SDM公開講座
「スマートグリッドが切り開く新生
スマート日本」
村上憲郎
(株式会社村上憲郎事務所代表取締役)
@日吉キャンパス 独立館 地下2階DB201
[http://www.sdm.keio.ac.jp/news/
2011/05/18-104136.html](http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2011/05/18-104136.html)
終了後にSDM説明会を行います
要事前登録 無料

2011年度第I期入学試験 日程

(2011年4月または2011年9月入学志望者対象)

Webエントリー期間

2011年6月1日(水) ~ 2011年6月13日(月)

出願期間

2011年6月8日(水) ~ 2011年6月13日(月)

1次選考合格発表

2011年6月24日(金) 午後1時

2次選考

2011年7月2日(土)・7月3日(日)

2次選考合格発表

2011年7月5日(火) 午後1時

[http://www.sdm.keio.ac.jp/admission/
説明会 Ustream \(録画\)
http://www.ustream.tv/recorded/14686808](http://www.sdm.keio.ac.jp/admission/)

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

[http://www.keio.ac.jp/ja/
event/201105/201105_index.html](http://www.keio.ac.jp/ja/event/201105/201105_index.html)

通算30号 2011年5月発行

SDM
System Design and Management

研究科委員長兼研究所長からのメッセージ 新しいSDMが始動しました

今年度は、震災と原子力危機の影響により入学式が延期という異例のスタートとなりましたが、4月4日に行われた新入生ガイダンスに集まった新入生は、このような時だからこそSDMから世界を変えるのだという気概と決意にあふれていました。4月5日から予定通り講義も開始し、例年と同じく、日本とは思えないほどの(つまり、真剣なまなざしと機関銃のような質問にあふれた)活気あふれる授業が始まりました。今年度の方針「これまで以上に徹底的に教え、学ぶ」も浸透し、多くのディスカッション、多くの宿題、多くのグループワークに、学生はへとへとになりながらついてきます。「震災や原子力問題を題材にした現実的、実践的でシステマチックな授業を受け、SDMに来て本当によかった」という新入生の声に強い手ごたえを感じています。

4月16日には、新しい試みとして、在学生・新入生・教員・研究員の「ポスター交流会」を開催しました。また、今年度は残念ながら震災の影響により協生館での開催となりましたが、恒例の入学合宿を4月23日、24日に実施しました。新入生の仮指導教員も決まり、博士課程学生は4月9日に研究発表会、修士課程入学半年以上の学生は4月22、23日に中間発表会を行い、研究関連のイベントも目白押しです。明治維新前の混乱期の慶應義塾同様、SDMは、どんなことがあろうと先導者として歩み続けます。これからも、ご協力、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



SDM研究科委員長・SDM研究所長 前野隆司

最近のニュース

TOPIC 1

プロジェクトマネジメント補講(PMP受験対策講座)を開講

春休み中の土曜日5回を使い、PMP®資格受験希望の学生・教員28名が参加し、「プロジェクトマネジメント補講」が行われた。本講座は、当麻哲哉准教授が中心となって、約1年の構想の末に実施された。PMP®とは、米国に本部を置く世界最大のプロジェクトマネジメント協会 Project Management Institute によって、プロジェクトマネジメントのスキルを有していることを認定する資格“Project Management Professional”のことである。世界中で40万人を超える資格保持者がいる。

講師にプロのインストラクター大塚有希子氏(SDM研究科博士課程在籍)を迎え、PMI日本支部公認セミナーとして2月末にスタートしたものの、シリーズ途中で東日本大震災がありスケジュールが大幅に遅延、ようやく4月23日に最終回の模擬テストを終えた。講座修了後すぐに試験に臨んだ3名は全員合格している。



模擬試験を終えて笑顔の受講生たち

好評だったこの講座、今期は夏休み期間中の開催を目指す。慶應SDMのように、プロジェクトマネジメントをコア科目に据えて、PMP®受験を積極的に支援している大学・大学院は他に例を見ない。これからも多くのPMP®資格者を輩出していきたい。

TOPIC 2 SDMポスター交流会



ポスター交流会の様子

今年度より、新入生を含めた在学生、教員の交流を活性化させるために、「ポスター交流会」というイベントを開始した。4月16日(土)の午後、協生館6階の廊下・会議室には、100名以上の学生、教員、研究員、外部評価委員、外部からの参加者があふれ、多様なラボのポスターを前に、活発な交流が行われた。今後もこのよ

うな交流イベントを鋭意開催するとともに、外部に向けて発信するオープンハウスの企画も実現する予定である。ご期待ください。

TOPIC 3 2011春入学および2010年秋入学修士・博士学生の「入学ガイダンス」および「合宿」 挙 行!

3月11日の東日本大震災の影響で多くの大学が入学時期や授業開始を遅らせる中、当研究科では、4月の現時点よりも7月に向けて夏にかかる時期の電力需給はより厳しくなる可能性が高いという認識のもと、4月4日に入学ガイダンスを実施し、事実上の新入院生の受け入れを行った。翌4月5日からは平常通りの授業を開始し、大震災の影響を最小化することこそ震災に負けない姿勢を示すことだとの認識に従った。

しかしながら、例年学外(昨年度は千葉県生命の森リゾート)で行っている合宿は、今年度に限り、余震などが続いている状況で大勢の学生・教員が移動することはリスクが大きい

との判断から協生館で行うこととした。日程も4月22日～24日の2泊3日の予定から、23日・24日の2日間に短縮し、事情のあるものを除いて宿泊なしで朝集合、夕解散という方式を取った。全体として、時間が短縮され、内容も縮減せざるを得なかったが、一日目の問題提起からソリューション提案までのグループ討議の時間は長めにとり、参加者間の連携意識を高めることに役立った。これは夕刻に立食形式で行われた懇親会でのグループ討議結果の発表に遺憾なく発揮された。小木哲朗教授の司会で開始された各チームの発表は例年の各チームの「出し物」をはるかに上回る趣向を凝らした発

表が続き、会場からの臨機応変な質疑応答や保井俊之特任教授・神武直彦准教授の絶妙な講評が続き、時間が制限されていたなかでは大変な盛り上がりであった。また、2日目には福澤研究センターの都倉武之講師の福沢先生の理念や災害への取り組み姿勢など現在にも通ずる価値観について解説いただいた。また、前野隆司委員長より、SDM誕生の秘話をご紹介いただき、修士2年の櫻井智明君からSDMを有意義に過ごすためのノウハウなど充実した内容のプレゼンテーションが続き、時間は短かったものの、内容や参加意識の非常に有意義な合宿となった。



グループ討議の様子



懇親会の様子

TOPIC 4 緊急企画「震災危機を超えるエネルギーシステムデザインの未来」の開催

3月11日の東日本大震災後の原子力災害、また、計画停電などにより電力需給に関する懸念がこれまでになく高まっている状況に対応して、表題の緊急企画を4月27日に実施した。

特に、福島第一原子力発電所の事故はいまだに予断を許さない状況が続いており、原子力発電の将来には暗雲が立ち込めている。原子力発電はこれまで全発電量の3割を担っており、今後、急激なエネルギー需給変化による供給不安につながるようなことがあれば、日常生活にも産業界にも多大な影響を及ぼす可能性がある。一方で浜岡原子力発電所の停止など原子力発電に対する地域住民の不安は根強く、原子力発電そのものが必要なのかという議論もおこっている。

このような背景のもと、内閣府原子力委員会委員長代理の鈴木達治郎氏、独立行政法人放射線医学総合研究所理事の村田貴司氏、社

会安全研究所所長の首藤由紀氏、北陸電力志賀原子力発電所の木南宗孝氏、原子力技術協会専務理事の百々隆氏などそうそうたるメンバーに参集いただき本企画が開始された。SDM研究科委員長である前野隆司教授の司会で参加者のプレゼンテーションを行った後、原子力の将来展望や現状の収束など哲学的な議論も含めて予定時間を超える白熱した議論

が続けられた。議論はSDM研究科の前委員長狼嘉彰氏(SDM研究所顧問)を含めた5名のコメントータによる問題提起に従い、時間が短く感じられるほどの迫力のある議論が続いた。当日はGCOE研究員、SDM博士課程・修士課程学生、関係教員、理工学部教員など多様な方の参加があり、CDFルームが満席になる盛況であった。



前野委員長の司会でコメントータを含めて白熱した議論が続いている様子

TOPIC 5

英語特訓クラス 開講



英語特訓クラス授業風景

英語能力はグローバルに活躍する人材の必要条件と言われて久しい。SDM研究科では日本にいながら海外で通用する英語力を獲得することを目指し、2011年4月より入学者全員にTOEFL-ITPの受験を課すとともに、併行して2種類の英語特訓コース(Greene, Dick特任教授、当麻哲哉准教授、湊宣明特任教授)を開講している。

英語特訓(ALPS準備コース)では、5月から11月にかけてマサチューセッツ工科大学、スタンフォード大学(以上、アメリカ)、デルフト工

科大学(オランダ)と共同で行うALPS(Active Learning Project Sequence)の講義内容を英語で理解するための特別カリキュラムである。昨年度のALPS教材の中から頻出の専門用語や英語フレーズを事前に英語として耳に入れておくことで、MITをはじめとした世界一流の教授陣による貴重な講義を漏れなく理解できるようにしている。

英語特訓(留学準備コース)は、SDM研究科の海外提携校へ交換留学することを目指したクラスである。海外大学院での英語による講義を

想定し、ディスカッションやプレゼンテーションも含めた総合的な英語力強化を毎週行っている。スイス連邦工科大学(スイス)、ミラノ工科大学(イタリア)、デルフト工科大学(オランダ)、フランス国立理工科大学(フランス)、パデュー大学(アメリカ)、クイーンズランド大学(オーストラリア)など、提携校は毎年世界各地に広がっている。国内で磨いた英語力を海外の実践の場で高め、真のグローバル人材としてSDMから巣立ってほしい。

TOPIC 6

震災復興政策にSDMの方法論が必要と保井教授が雑誌寄稿



▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/pdf/911から311へ教訓.pdf>

政財官界の要路の多くが読む会員制月刊誌「FACTA」2011年5月号に、本研究科の保井俊之特任教授が『9・11から3・11へ教訓』と題する記事を寄稿した。自身が9・11テロの被災者でもある同教授は、震災で傷んだ日本の経済社会システムの「つながり」の回復こそ急務と分析。SDMの主要科目であるシステムズ・アプローチとプロジェクト・マネジメントを震災関の



9-11テロ: 来援を頼むニューヨーク市消防局消防士米海軍ウェブサイトより
http://www.navy.mil/view_single.asp?id=131

標準的思考法として導入すべき等の政策提言を行っている。

- 媒体名称: FACTA
 - 発行時期: 2011年4月20日
 - 発行: ファクタ出版
 - 掲載場所: FACTA2011年5月号, pp.36~39
- ※著作権に関しては先方の許可を得ています。



3-11震災: 救助活動へ向かう陸自部隊 陸上自衛隊ウェブサイトより
<http://www.mod.go.jp/gsdf/news/dro/2011/0316.html>

TOPIC 7

KEIOフットサルアドベンチャー 2010の様子が、小峰書店発行の『遊びとスポーツのバリアフリー』に掲載



掲載された内容

2010年10月16日(土)に、慶應義塾大学日吉陸上競技場で開催した、KEIOフットサルアドベンチャー 2010のブラインドサッカー^(注)体験
注: ブラインドサッカー: アイマスクをして、音の鳴るボールを使ってプレーするサッカー

会の様子が、小峰書店発行の『遊びとスポーツのバリアフリー』(「さがしてみよう! まちのバリアフリー」第4巻)に掲載された。KEIOフットサルアドベンチャー 2010は、津々木晶子君(博士課程1年)が中心となって企画し、慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会(HAPP)主催のもと、日本ブラインドサッカー協会および塾内の体育研究所、ユニバーサルデザインラボ、商学部牛島利明研究会、フットサル倶楽部、飯盛研究室Jointの協力を経て実施したスポーツイベントである。当日は、陸上競技場に4面のフットサルコートを作り、フットサル大会、ブラインドサッカー B1関東リーグ、ブ

ラインドサッカー体験会の3つのイベントを実施した。その中の、ブラインドサッカー体験会の様子が掲載された。



ブラインドサッカー体験会の様子

ラボ紹介

今月号では、西村秀和教授が代表を務める2つのラボを紹介します。



西村 秀和 教授

専門分野:モビリティ(移動すること)に関する安全制御システムマネジメント、プロダクトやサービスのモデル駆動型システム開発。

モデル駆動型システム開発ラボ

(Model-Driven Systems Development Lab、通称MDSLラボ)

代表

西村 秀和 教授

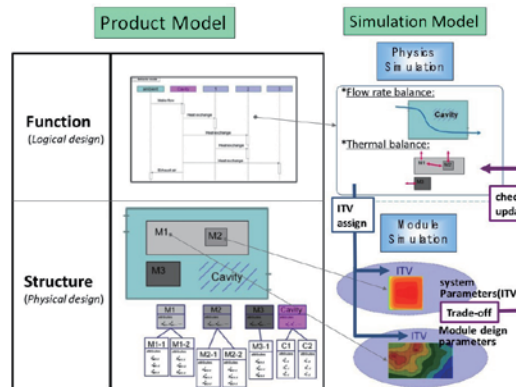
メンバー

成川 輝真特任助教、白坂成功准教授、ほか

モデル駆動型システム開発ラボでは、モデルベースでシステムズエンジニアリングプロセスを推進するためのツールとして開発されたSysML (Systems Modeling Language)のほかDSM (Design Structure Matrix)、MDM (Multi Domain Matrix)などを用いた具体性のある研究を実施しています。ハードウェア、ソフトウェア、人や設備などから構成される複雑なシステム(プロダクトやサービス)の開発に、SysMLを中心として適用する研究を行っています。

最近の成果として、システム内部の空間、キャビティを一つのモジュールとしてみなすことにより、他のモジュール間のインタフェースを整理し、設計の見通しを良くすることができました。そして、国際的に分散する開発チームは、キャビティでやりとりされる各モジュール間の物理パラメータを、SysMLで統合されたプラットフォームで共有でき、コンカレントエンジニアリングを促進することができます。

(後期博士課程 関 研一君(ソニー))



また、このラボでは、現在、年内の出版を目指してA Practical Guide to SysML (ELSEVIER) を翻訳しています。モデルベースシステムズエンジニアリングの普及により、無駄な手戻りを一掃し、エンジニア達の余暇を増やし、そして、さらにイノベティ

ブなシステムを生み出す良い循環を創りたいと考えています。MDSLラボには外部からさまざまな業界の方々かSDM研究所の研究員として参加されています。

ユニバーサルデザインラボ

(Universal Design Lab、通称UDラボ)

代表

西村 秀和 教授

メンバー

中野泰志(経済学部教授)、前野隆司教授、ほか



ユニバーサルデザインラボでは、Human Centered Designのコンセプトのもとで、人々が移動し活動するバリアフリー空間のあり方を研究しています。アクセシビリティの検討、体験を通じた社会要求の分析を行い、あるべき姿を描き、そこに必要となるシステム(モノ/サービス)を明確

にデザインします。

現在は主として、「人が移動すること」という意味での“モビリティ”の中で、Personal Mobilityの一つである電動車いすとエレベータ、エスカレータ等の昇降機について研究を進めています。日吉キャンパス内の大学施設や日吉駅などの周辺のバリアフリーとユニバーサルデザインを障がい者のさまざまな方々の意見を聞きながら検証・評価しています。

障がい者のみならず健常者も含め、誰でも安心して利用できる安全な“モビリティ”をデザインするため、UDラボは、モビリティシステムマネジメントセンターの活動とも密接に関係しています。日本交通計画協会とともに発足した公共交通研究会では、駅や街の中でのバリアフリー空間について広範囲な視点からさまざまな意見交換を行っています。

このほか、平成22年度は以下のようなイベントを企画しました。

MID_ACT 1yen moviemment

Movie in the Dark は、視覚障がい者の映画鑑賞について考えるためのイベントです。来場者には、UDラボを中心とするメンバーが、独自に作成した音声ガイドを体験してもらいました。映画代から1円を集め、年100本の映画に音声ガイドをつける“1 Yen Moviemment”の実現性について、上映後にさまざまなステークホルダーを交えて討論しました。

KEIOフットサルアドベンチャー 2010では、視覚障がい者と健常者があたりまえに混ざり合う環境を作り出し、みんなが楽しむ場を創発することに挑戦しました。日本ブラインドサッカー協会、体育研究所、学生有志と協力し、イベントを開催し、身体知と交流、学生や地域住民への認知拡大と調査を行ないました。



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management